

コミュニティを大切に するまちづくり

ライフスタイルや住民ニーズの多様化などに伴って、かつてのような地域社会の結びつきが弱まり、地域に対する住民の愛着や、住民どうしの共同体としての連帯意識の希薄化など、地域コミュニティとしてのあり方を問い直す時期にきています。また、幹線道路や生活道路のネットワーク化が進み、町内の自動車通行量も増加し利便性が高まった反面、自動車通行量の増加によって、交通事故や犯罪の発生を懸念している人が増えています。

方向性		基本的な施策
1	協働のまちづくり これからのまちづくりは、住民と行政との「協働」が求められています。 住みやすく豊かな地域社会をつくるために、住民活動団体やボランティア、NPOなどの団体と行政とが対等な関係で役割と責任を共有し、それぞれの特性を生かしながら、連携し、協力しながら地域のさまざまな課題に取り組むために「協働」のまちづくりを推進します。	①住民活動団体やボランティア、NPOなどの団体と行政との連携
		②「協働」のまちづくりの推進
2	コミュニティ 「協働」を進めることで、地域に対する関心を高め、地域活動を行う担い手の発掘・育成を続けていくことによって、災害時の対応や犯罪の防止などの対策も図られます。子どもから高齢者まで人に優しく、生きがいを感じられる生き活きとしたまちを目指すために、小学校などの公共施設を核としたコミュニティの形成を推進します。	①地域活動を行う担い手の発掘・育成
		②災害時の対応や犯罪の防止
		③小学校などの公共施設を核としたコミュニティの形成を推進
3	安全な生活 安全な生活が確保された地域社会を構築するためには、人と人とのつながりを大切に地域力を高め、犯罪・災害に関わる危険な箇所や要援護者の把握と支援、災害時の避難場所の確認と避難所の充実、効率よく活動するための組織を形成するなどの取り組みを推進します。	①犯罪・災害に関わる危険な箇所や要援護者の把握と支援
		②災害時の避難場所の確認と避難所の充実
		③効率よく活動するための組織を形成